

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第一中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	学校教育目標の実現に向けて職員が一丸となって取り組んだ結果、よい評価であった。今後も学校の取組が生徒に生かされ、よりよい成果が期待できるように、チームとしての力を向上させるために努力をしていく。	A	・目標の実現に向けて、教職員一丸となって取り組んでいる。 ・教職員用のアンケートを見ると、「あまりあてはまらない」と選んでいる方がいるのが残念です。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	避難訓練や、登下校を含む安全指導等、日頃の危機管理体制を徹底しており、保護者や生徒からの評価が高かった。保護者から、不審者に遭遇した時の危険回避の指導や、下校時の交通マナーについて意見があったので、更に指導を充実していく。	B	・安全指導をしっかり行っている。 ・教職員用のアンケートで、「あまりあてはまらない」と答えている方がいるので、もっと危機管理体制を良くする余地があると思うので、対応して行って欲しい。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	授業時間の確保や、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導と、少人数指導やT-TIによるきめ細かな指導を行った結果、概ねよい評価であった。今後は、より分かりやすい授業づくりへむけて、ICT機器を活用した指導等、授業の質を高めていく。	B	・少人数指導やT-T指導等、きめ細やかな工夫を行い、成果をあげている。 ・定着ということでは、もう少し力を入れて欲しい。 ・理解度には個人差があるので一人一人の状況の把握と、改善策を今後も考えて行って欲しい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	全国学力学習状況調査や、埼玉県の実態調査等の結果を受け、授業改善を進めた結果、よい評価であった。保護者からは、習熟度に合わせたメリハリある指導の要望があったので、校内研修を通して、組織的に研究を進めていく。	A	・校内研修の推進に努めている。 ・先生方、色々と工夫され、努力をしていると感じます。しかし、子どもたちには感じていない学年があるのでですね。 ・努力目標の具体化により生徒が目指す方向がはっきりし、到達に向けての努力が見られる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	学校における約束や生活する上のルールを大切に、正しい学校生活を送ろうとする生徒が増え、概ねよい評価であった。日常生活の中でもリーダーが力を発揮できる生徒集団の育成を行う。	A	・生活のルールをほとんどの生徒が守っている。 ・慣れが出てくるとダレているなど感じます。2学期後半以降になるととてもダレている感じの子が増える。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	生徒指導部会、生徒指導委員会において生徒理解に努め、積極的な生徒指導を組織的に展開することにより、よい評価であった。今後も、生徒の実態に基づいたルールや、指導方法の見直しをおこない、よりよい指導の工夫・改善に努める。	A	・積極的な生徒指導を組織的に推進している。 ・先生によって温度差があるように感じます。 ・学校や先生方が生徒の様子に常に目を配っているため、生徒の行動・マナー等、大変向上したと思う。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	保健体育の授業、運動部活動の充実に加えて、体育委員会主催の昼休み校庭開放を実施し、以前より体を動かすことが好きな生徒が増え、よい評価につながった。	A	・生徒の委員会による校庭開放や部活動をしっかりと行っている。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	授業において、運動量を増やして基礎体力の向上を図るとともに、スポーツテストの結果を掲示し、生徒へ啓発することにより、概ねよい評価であった。今後は、体力テストの結果を踏まえて、学校として課題である投力・握力の改善・克服を図っていく。	A	・運動量を増やす授業の取組や、行事を工夫して行っている。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	ふれあい推進事業や、クリーン大作戦、除草・花植えによる美化活動・緑化活動では、保護者・地域社会の力を活用し、連携を深めるとともに、学校の教育力の向上を図ることができた。概ね良好な評価であった。	B	・保護者・地域の様々な連携を推進している。 ・学校行事や学校公開などを活用し校内をオープンにすることで、より学校への理解を深めることができた。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	朝のあいさつ運動や年3回の郊外パトロール、PTA運営委員会における、地域での子どもたちの生活に関する情報交換を通して、生徒の安全指導・健全育成を推進できた。概ねよい評価であった。今後も連携を深め、より開かれた学校づくりを目指す。	A	・あいさつ運動や、校外パトロールなどを積極的に推進している。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満